

現総合計画の課題に係る基幹計画及び個別計画の所管課ヒアリング結果まとめ

■ヒアリングについて

○目的：次期実施計画の策定にあたり、現総合計画の課題等について、計画を運用している行政側から把握すること。

○対象：基幹計画及び個別計画の所管課

○時期：基幹計画 令和 3 年 4 月中、個別計画 令和 3 年 6 月中

○まとめ方：企画課において聞き取りした内容について、項目ごとにとりまとめた。

1. 総合計画の在り方について

- ・総合計画は理念的なつくりでもいいと思う。細かい内容を記載されすぎているような気がする。
- ・総合計画は概念的なつくりで十分と考えており、各々の個別計画で総合計画の方向性に向けて進行管理すれば十分と感じる。
- ・総合計画は理念として個別計画を支える形で進めていくのが望ましい。
- ・結局は財政課の予算措置や事業査定、政策判断で新たに始まる事業や変更となる事業もあるため、形だけの総合計画を作っても意味がない、もっと流動的にしやすいものを作るべき。
- ・取組みの方向が抽象的過ぎて、こういった対象にどういう目標を以て進めていくかというゴールを総合計画側から示していくべき。
- ・総合計画はムリに定量的な目標を立てず、もっと概念的なつくりにして、個別計画でそれぞれ管理する形の方がいいのではないか。
- ・市長が変わることでそもそもの方向性自体変わってしまう中で細かく計画を固める必要性を感じない。

2. 基本構想の見直しについて

- ・基本構想が変更となると大がかりになると考えられ、個別計画の見直しが妥当。
- ・抽象的な部分についてはいじらない方がよい。
- ・5本の柱と取組みの方向については特に変更は思い当たらない。
- ・基幹計画と個別計画について、現況に即した文言の整理のみで十分と考えている。
- ・基本的には国の方針をベースに改定等も行っているため、基本構想による個別計画への影響は少ないと思う。

3. 計画体系について

- ・ 取組みの方向と計画が1対1対応である必要性は感じない。
- ・ 計画体系としたメリットは感じていない。個別計画が自主的に動いて、結果として総合計画の構想を達成していくといった考え方の方が所管も動きやすいと思う。
- ・ 総合計画のために計画体系のとおり進めているが、実情としては個別計画で進んでおり、総合計画で体系化する必要性は感じない。
- ・ ピラミッド（計画体系）を意識しすぎて、中身が伴わないものとなっている。
- ・ 計画体系は概念的に繋がっている程度に抑えた方がよい。
- ・ 計画体系の必要性はあまり感じていない。
- ・ 総合計画にきれいに体系として入れ込むことに無理があるのではないか。
- ・ 緑の基本計画に下水道の話が盛り込まれていたり総合計画に合わせるためにこじつけられているように感じる。

4. 実施計画の計画期間・ローリングしないことについて

- ・ 近年のコロナウイルスを経験すると長期計画ではフォローできないことが多く存在していると思う。
- ・ 個別計画と総合計画の期間のズレに対して問題点は感じていない。
- ・ 実施計画が8年と長期であり、具体的過ぎるため、状況が変化したときに評価が難しい。可変的なものの方がよい。
- ・ コロナや緊急財政などになり、従来の進行管理ができないため、そのまま計画だけ進むとズレがでてくる。
- ・ 8年という計画期間が長すぎて、既に達成している事業目標も出てしまっており、懇話会からもその後の進行管理の意味を感じなくなるという意見も出ている。先が見通せないため、今後の計画策定にも苦慮するところ。
- ・ 8年という計画期間の中で技術革新などが起き、目標の根本が変わってしまったものについても目標を見直せないことに課題感がある。（ex:ポータルサイトを今は経由しない人も多い。）
- ・ 8年間の間隔では目標値に無理がある。
- ・ 社会情勢等による変化に随時対応して計画変更できる形でないと懇話会等での不満が多い。
- ・ 8年間の計画の中でGIGAスクール構想など新しい考え方などが示された際に計画変更や目標修正など対応ができないのは厳しい。
- ・ 前期実施計画策定時と状況が変わってしまっており、事業が既に目標達成してしまっているものもあるため、本当は適宜見直せる形にした方がよい。
- ・ 計画期間が総合計画とは不整合なため扱いにくい。（広域の計画も同様）

- ・ 8年間の計画が変更できないことが進行管理上難しい。
- ・ 計画が8年となり、変更ができないことも負担となっている。
- ・ 数値目標を立てる計画が長すぎる。もっと短い期間で目標を立てなければ意味がない
- ・ 計画策定には知識のない職員がつくことや地域住民や地域の団体・企業との方向性の統一など課題が多く、時間と費用がかかるため、現在の計画期間とおりに進めるのは難しい。
- ・ 総合計画（実施計画）と個別計画での計画年数にズレがあるため、各委員への説明に苦慮する。
- ・ ローリングしないから状況が伝わりづらい。

5. 基幹計画について

- ・ 基幹計画がホッチキスで事業をまとめただけで役割分担がハッキリしていない。
- ・ 基幹計画がホッチキス留めになってしまっていると思う。
- ・ 基幹計画の意義が問われることとなると思う。位置づけが分かりづらい。
- ・ 基幹計画があることで細かな変更などがしづらくなってしまっている。
- ・ 法定で基幹計画の策定が決まっており、体系を変えずにやらざるを得ない。
- ・ 現在のやり方では基幹計画により整合性が保たれているとは思えない。
- ・ 基幹計画について、新しい懇話会メンバーへの説明としても理解してもらうのに苦慮する。
- ・ 基幹計画はあまり影響があるとは思っていない。
- ・ 基幹計画が機能しているとは思えない。
- ・ 第2節を教育としてまとめてしまうのは適切ではない。
- ・ 第2節は共育という計画がなくても成り立ってしまうと考えている。
- ・ 共育という存在は市民に伝わりづらい。
- ・ 環境基本計画が個別計画全体をまとめているため、その存在は個別計画の存在意義を確立させるため必要だが、総合計画の基幹計画として位置づける必要性までは感じていない。
- ・ 健康増進計画は福祉プラン内でも立ち位置が異なるため、本計画と方向性の違う意見が基幹計画から出てきてしまうことが多く、基幹計画は福祉全般が包含されている難しさがあると思う。
- ・ 重度的支援体制整備事業実施計画と基幹計画が両方存在する形でないといけない。

6. 個別計画について

- ・ 個別計画を統合するという考え方があっていいと思う。
- ・ 総合計画に合わせて個別計画を策定したため、無理やり個別計画の中に事業を入れ

ているように感じる。

- ・個別計画は総合計画の指標・方針に基づき、それぞれの中で進行管理する形で十分と考える。
- ・理想としては計画があつて、事業があるものとするが、逆転してしまっているものも多い。
- ・個別計画が総合計画に引っ張られる形になってしまっており、個別計画にももう少し流動性ができるとうい。
- ・法定の計画のため、逗子市総合計画に全て合わせられるものでもなく、リーディング事業や基幹計画事業だけでは表現しきれないところがある。
- ・法定でない個別計画について、不要と判断するのであれば、企画課発意のもと、一括で廃止してもらいたい。
- ・生涯学習は成熟期に入り、8年の計画期間で何が変わえられるか疑問がある。
- ・個別計画の中でも市長の考えの中で比重が違う。
- ・逗子市自殺対策計画や逗子市食育推進計画など、総合計画に位置付けられている個別計画よりも各所管が横断的に対応すべき政策的な内容の個別計画がある。

7. リーディング事業について

- ・リーディング事業と基幹計画事業の重要度が入れ替わってしまっている。
- ・リーディング事業と基幹計画事業を分ける意味は感じていない。
- ・リーディング事業と基幹計画事業はどちらも重要であり、進行管理上それぞれの位置づけは意識していない。
- ・リーディング事業と基幹計画事業など分かりづらい作りになっている。
- ・リーディング事業が市民のニーズにそぐわず、基幹計画事業の方が重要度が高い場合もある。
- ・リーディング事業そのものを今回の策定ではあまりいじらない方がいい。

8. 計画間の連携について

- ・基幹計画や総合計画からのフィードバックのメリットを実感したことがない。
- ・基幹計画でも総合計画でも途中参加せずに最後に連携に関する報告を受けても、意味がなく、途中経過の中で調整しているわけではないので、意味を感じない。
- ・基幹計画からのフィードバック、横の連携についてはあまり感じていない。
- ・総合計画の評価について各計画からの報告をまとめたただけとなっており、意味を感じない。
- ・連携としては、生涯学習活動プランのためにc事業として学校支援地域本部事業、教育相談事業を提出しているのみで、実務的な連携は感じていない。
- ・総合計画のフィードバックは活用した覚えがない。

- ・機構の問題もあると思う。
- ・福祉プラン間では横の連携はできていると思う。各論として位置づけは引き続き必要である。

9. 予算との連動について

- ・予算事業と連動していない事業や計画と連動していない事業もある。
- ・進行管理と予算が連動していない。進捗が不十分でも予算が足らず、予算を用いない方法で検討するしかない。
- ・リーディング事業と予算事業が一致していないと感じる。
- ・予算科目とあっていない事業がある。

10. 目標設定について

- ・法定の計画の目標と総合計画の目標が合わない。
- ・定量的な目標のみで計画の達成度を図ることは難しい。
- ・前期実施計画の目標値に行政で実施していない内容などが含まれており、意味を感じない。
- ・社会情勢が変化していく中で計画の目標を変えられないのは不便。
- ・目標は定量や満足度にすることが適切なのか、目標を達成するための事業推進になりかねない。
- ・リーディング事業等の目標は定量的なものを無理やり作っているため、事業の本来の目的からズレも感じるが、それ以外の方法での管理も思いつかない。
- ・既に計画が頓挫しているものもあるにも関わらず、計画内容や評価の修正ができないのは厳しい。
- ・当初の目標値自体、現在、改めて見ると不可思議なものになっている。
- ・目標を数値化しているため、委員に無理くり評価をしてもらっており、委員に対して数値目標で評価してもらうことが難しい。
- ・目標を達成したら、次の目標を立てられるようにしたい。療育推進計画については1年目で達成してしまい、その後の評価の付け方に苦慮した。
- ・総合計画はムリに定量的な目標を立てず、もっと概念的なつくりにして、個別計画でそれぞれ管理する形の方がいいのではないかと。＜再掲＞

11. 計画と実務について

- ・計画が多すぎる。
- ・計画の数は多いが、実態が伴っていないように感じる。
- ・組織と計画と事業がバラバラ。
- ・実施計画が行政の指針になっておらず、本来の仕事（業務）とリンクされていない。

い。

- ・法定の計画のため、逗子市総合計画に全て合わせられるものでもなく、リーディング事業や基幹計画事業だけでは表現しきれないところがある。　＜再掲＞
- ・総合計画に合わせて仕事をしてしまっている。
- ・総合計画に合わせて、個別計画を策定したことで懇話会への説明等が難しくなっている。また、目的がぼやけている。
- ・計画の進行管理に沿った事業・計画になってしまっており、本来やるべき事業ができていない面もある。
- ・財政事業やコロナなど各課で対応しきれない社会情勢の中でも計画の修正ができない中で進行管理と呼べるのか。
- ・どんどん計画が増えることで計画に追われ、本来の事業推進ができない。
- ・総合計画策定前から学校教育総合プランが策定されており、学校の取組みについて重点事業を懇話会が進行管理していたが、個別計画に位置付けられた時に本来の予算事業と違う形に組み替えてリーディング事業等が形づくられたため、教育委員会側からは分かりづらい計画になってしまっている。目標についても本来学校の取組みを進めるものでなく、行政向けに組み替えられてしまっており、ズレを感じる。
- ・普段の業務に加えて、計画のための仕事をするような状態になっている。
- ・計画が多すぎるので、整理がついていない。本当は一元化したい。
- ・基幹計画所管課は個別計画の進行管理も兼ねており、それぞれの懇話会で意見を聴取せねばならず、負担が重すぎる。
- ・計画と懇話会が1対1になっているのはやめた方がよい。
- ・懇話会と計画が1対1にされているのも無駄で重い。
- ・1対1対応の計画と懇話会の関係により、業務が繁雑となっている。
- ・進行管理表を対応することで計画上の事業を進めているということになる。
- ・現在、企画課に相談している情報化推進計画案は国の参考例を元に作成されたものであるため、内政的な要素が強い。

12. 進行管理の手法について

- ・総合計画は概念的なつくりで十分と考えており、各々の個別計画で総合計画の方向性に向けて進行管理すれば十分と感じる。　＜再掲＞
- ・総合計画の評価が下から上がってきただけのものとなっており、意味を感じない。事業評価を基幹計画に上げていく必要性・意味が感じられない。　＜再掲＞
- ・本来行うべき計画の推進よりも進捗管理に手がかかり、見通せていない。
- ・総合計画や基幹計画を単年度で評価する意味を感じない。
- ・進行管理が目的になってしまっているように感じる。
- ・以前の総合計画の方が進行管理しやすかった。

- ・複数年で進捗するものが多いため、毎年の進行管理とする必要性が感じられない。
- ・進行管理をボトムアップ式にやっていく必要性をあまり感じていない。
- ・個別計画の細かな点まで専門性のない市民委員が見ることとなる点を見直すべき。
- ・労力に見合った計画にすべき。現在は計画の進行管理のために事務作業が発生してしまっており、計画の適切な遂行になっていない。
- ・平成 30 年度から懇話会での指摘により、別のシートを用いて 2 種類の進行管理を行っている。（定量でなく、定性の進行管理）
- ・住環境形成計画は総合計画審議会の進行管理シートと別のシートを用いている。
- ・環境基本計画は総合計画の進行管理とは別の評価基準で進行管理している。
- ・地域温暖化対策実行計画は目標などを立てておらず、他の進行管理は行っていない。
- ・懇話会では総合計画の進行管理表で事業については進行管理をしているが、個別計画で見込みを立てた数値目標が別にあるため、その項目についてはエクセルで現在の数値との比較表を作成し、それに対し懇話会から意見をもらっている。
- ・懇話会に対しては進行管理表のみで実施しているが、文化では文化振興調査・評価委員会に別の目標値等に対して評価をお願いしており、スポーツではスポーツ推進審議会が評価組織として個別計画を更に細かくした内容の評価を諮問している。
- ・教育委員会としても点検評価（法定）をしており、総合計画と同じ内容について外部有識者の意見をもらうため、評価が総合計画審議会と統一されず、ぶれてしまう恐れがある。
- ・総合計画の進行管理表は使っておらず、学校の取組みの評価シートを別につくり、その評価を基に総合計画の進行管理表に変換しているため、二度手間になっている。
- ・審議会では別の進行管理表を用いて進行管理しており、その進行管理結果を元に総合計画の進行管理表を作成している。
- ・懇話会では a 事業・b 事業・c 事業の計 13 個を総合計画をベースにした進行管理を用いて進行管理しており、その進行管理結果を元に総合計画の進行管理表を作成しているため、二度手間になっている。
- ・基幹計画については総合計画の進行管理表の中で完結している。
- ・個別計画はその他事業の評価も懇話会の中で行っている。
- ・もっとシンプルかつコンパクトで柔軟性のある方法にしてもらいたい。
- ・そもそもの手法の見直しはしてもらいたい。
- ・個別計画所管として基幹計画に進行管理を提出するなどの手間の割に生産性が見えない。
- ・現在の進行管理の方法では書面開催でも十分と感じてしまっている。
- ・分かりづらい、総合計画を理解していないと進行管理表についても、何をどうすれ

ばいいのか見えない。

- ・ もっとシンプルにしてほしい。
- ・ コロナや緊急財政などになり、従来の進行管理ができないため、そのまま計画だけ進むとズレがでてくる。〈再掲〉
- ・ 基幹計画事業は既に完了している（協働提案事業は終了）ため、リーディング事業のみで事足りる。むしろ、個別計画として取り扱いに困っている。
- ・ 1対1対応の計画と懇話会の関係でなく、広い目で進行管理してもらっていいかと考えている。
- ・ 個別計画・基幹計画・総合計画の3つの計画で事業の内容の確認がされるため、その負担を感じる。
- ・ 総合計画審議会でも事業を確認しているなら、基幹計画でも見る必要はないと感じられる。
- ・ 進行管理表のつくりはルーティンなので、あまり気にならない。
- ・ 書類と手順の簡素化を検討してもらいたい。
- ・ 環境都市課が基幹計画総括表を作成していることもあまり認識がない程度になっている。
- ・ 個別計画は総合計画の指標・方針に基づき、それぞれの中で進行管理する形で十分と考える。 〈再掲〉
- ・ 他所管の事業の審議も懇話会で求められているため、懇話会の進行が難しい。
- ・ 計画の目標の内容が自課で実施しない事業が多く、進行管理が難しい。
- ・ 総合計画のPDCAサイクルによる進行管理にばかり引っ張られてしまう。
- ・ 実際の業務として考えると計画外のものが多くあり、計画の進行自体も業務として負担となっている。
- ・ 懇話会（市民委員）も行政側も労力ばかりかかり、疲弊している。
- ・ 事務の手間をもう少し省ければと思う。
- ・ 毎年の進行管理は大変で労力が必要。
- ・ 今の手法では、市民参加を行うことで市民に責任を押し付けてしまっている。
- ・ 進行管理表に来年度の具体的な予定を書いてほしいという意見が懇話会からある。
- ・ 総合計画ですべての進行管理をしなくてもいいのではないかと思います。 〈再掲〉
- ・ 会議ではなく、一人ずつ進行管理シートの内容を聞き取った上で、懇話会の委員長に見てもらっている。
- ・ デジタル推進課となった今でも情報化推進計画が内政的な要素が多く、市民参加の方法の検討に苦慮している。（庁内のテレワークなど市民の意見を要しない要素が多い。）
- ・ 社会教育推進会議にて、個別の課題の意見をもらうなどしているが、あまり専門的でない。

- ・歩行者と自転車を優先するまちアクションプランはワークショップで進行管理することとなっているが、出来ていない、どうすればいいか分からない状態となっている。

13. 進行管理のスケジュールについて

- ・スケジュールが厳しく、基幹計画側の調整や取りまとめが大変。
- ・報酬を支払っているため、回数が限られているにも関わらず、計画の進行に時間を取られてしまい、本来話したい内容を議論できない。
- ・年4回開かれるが、諮問事項を7月ころまででまとめるため、個別計画総括表をつくる期日には間に合わず、書面開催せざるを得ない。対面で意見を聞いた方が詳細の説明などできるため望ましいことはわかっているが、進行管理のためだけには開けない。
- ・進行管理だけで時間を要してしまうため、やらされ感がある。
- ・議会報告が必要なことはわかるが、それぞれの期日が短く、進行管理が困難。
- ・スケジュール感が厳しい。

14. 未策定の計画について

- ・完成していない計画のため、既に進行している他の計画とのズレが気になる。
- ・基幹計画（都市デザイン計画）ができていないことが一番問題、個別計画ができていないため、策定できないという整理で進めてきたが、このままでいいのか疑問。
- ・現在、計画は未策定だが、立てる目標もない。（他に目標を立てるべきものがあるように感じる。）
- ・総合計画が分かりづらく、個別計画側としてどうすればいいか見えない。

15. 計画・事業の重複について

- ・各分野で重複している部分がある。
- ・総合計画内に重複した事業や計画があるように感じる。
- ・それぞれに懇話会と評価組織（法定や条例による定め）が存在しており、複数の進行管理要素になってしまっている。
- ・個別計画の重複を消していきたい。
- ・重複している事業が多すぎる。（生涯学習推進プラン・社会教育総合プラン）

16. 進行管理の評価基準について

- ・評価の方法（評価基準）を懇話会で判断できる形がよい。（自動計算はよくない。）
- ・評価の指標に対して懇話会からは不満の声が多い。（進行管理の決まりである旨を説明し、ご理解いただくまでに時間がかかる。）

- ・評価の方法（評価基準）をもう少し幅広く見られた方がよい。（a/b/c だけの評価に不満を持つ懇話会の委員も多い）
- ・現在の進行管理表のうち、事業評価について、個別事情を入れると評価が上がってしまうことや「～とみなせる」という表現について、懇話会から手法を改めた方がよいという意見があった。
- ・評価が a/b/c の三段階でザックリしている。
- ・実施結果で評価を決定されるため、進行管理表にも実施結果の状況だけ書き入れれば十分ではないか。
- ・評価を c にはできないため、個別事情を入れざるを得ない。

17. その他意見

- ・都市デザイン計画に縛られない都市マスタープランを策定していく方向が望ましい。
- ・都市計画マスタープランの内容を総合計画で位置付けることは難しい。
- ・総合計画が具体的過ぎるため、もう少し流動的なものとし、具体に実施するものを都市計画マスタープランで実施する、といった形が望ましい。
- ・まちづくりネットワーク会議の必要性は感じなかった。何のための会議か不明瞭だった。
- ・公共施設の計画など総合計画の中で本来包含されるべきものが別にあるのではないか。
- ・第2節や第5節については、5～8年後のビジョンが見えない。
- ・計画策定のたびに市民参加を要するため、策定一つ一つの業務が重みになっている。
- ・前期実施計画策定の時に企画側と所管で方向性が合っていなかった。
- ・現況と課題や取組みは個別計画と同じことが書いてあり、変更の必要性はあまり感じない。